

秋田公立美術大学と動物園

秋田公立美術大学(美大)との連携の始まりは秋田公立美術工芸短期大学(短大)時代に遡ります。2007年、同短大に赴任したばかりの若い先生からの「短大と動物園が連携し、研究や教育で何かできないか」という熱心な投げかけがきっかけでした。動物園を美術の力でもっと豊かな環境にしてみたいという強い思いを感じ、動物園側も学生の作品づくりや作品審査などで大学に何度も出向きました。若い学生の提案を活かす方法を模索していたところ、幸いにも動物園近くの西部工業団地・雄渾会が資金提供を快諾してくださり、翌年には園内案内看板の制作演習が行われました。優秀作品は動物園への設置が実現し、今も入園ゲートを入って左側に設置され活躍しています。それから16年、連携は受け継がれ発展してきました。

その後、短大の研究と歩調を合わせることで動物園は様々な成果を得ることができました。動物園へのアプローチ道路に設置されたアートボード、動物園のイメージキャラクター「オモリン」の制作など学生の様々なアイデアは、動物園を彩り、発信につながっています。

2015年、秋田市では前年開催された国民文化祭を受け、アフター文化祭事業の庁内アイデア募集があり、動物園は美大との連携事業を提案し予算化されました。「大森山Arts&Zoo」は動物園が資金を提供し、大学は学生や教員の力で動物園のアート化を図る事業でした。動物園と大学と一緒に実現可能なアイデアを選考し、年度ごとに展示作品が増え、動物園のアート化が進みました。

美大とのつながりはその後、「大森山動物園アートプロジェクト」に発展し、大森山公園にも活動の場を広げながら、人と自然、生き物との関わりを持たせた芸術活動となりました。

大森山アートプロジェクトは、園内誘導サイン「おしりでごんには!」や新たなサル舎建設に合わせ制作したサルの生態・



おしりでごんには!

進化を表す壁面アート、新屋の街から大森山公園に誘導する屋外アートとして、JR新屋駅構内や新屋ガラス工房入口、大森山公園写真スポット「I LOVE ZOO」などの作品設置を精力的に進めていきました。そして、開園50周年を祝い2023年3月に、台湾大同大学や韓国ソウル梨花女子大学も参加した作品コンペにより誕生した作品が入園ゲート周辺に登場しました。

動物園は美大とのつながりの中、他の動物園にはないアートを取り入れた動物園に成長しています。それは動物園にはない感性を、大学や学生とのつながりの中で取り入れることで生まれました。



サル舎内にある壁画



I LOVE ZOOは新たな撮影スポットに



JR新屋駅でオモリンがお出迎え



ピクニックをモチーフに楽しい動物園を表した「Oh happy day」(50周年記念モニュメント)



開園50周年を動物の音楽隊がお祝いする「The song of life」(50周年記念モニュメント)